徳島大学 Tokushima University Faculty of Medicine

医学部だより

第36号 2018.4.1

人を幸せにできる医療人を目指して

医学部長　丹　黒　　章

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。受験勉強からやっと解放され、春の日差しを浴びながらほっと一息ついているところでしょう。しかし、ここで一つ自覚してほしいことがあります。貴方たちは医療人になることを志して入学してきました。医療人は「人を幸せにする」という責務があると同時に、罷(まか)り間違うと「人を不幸にする」ことにもなりかねない、「命を扱う」職業です。卒業までの間、切磋琢磨、千鍛万錬(せんたんばんれん)して、プロフェッショナルとして、余裕をもって「人のお世話ができる」よう自己を研鑽してください。

医学部では、モデル・コア・カリキュラムに沿った「卒業時に医師として備えておくべき基本的な資質と知識、技術」を学びます。その中で医の倫理や患者の権利、医師の義務などの心構えのほか、チーム医療を推進するための指導力や、患者だけでなく医療者間との意思疎通を円滑にするためのコミュニケーション・スキルなど、実践的な能力を身に付けていきます。並行して医学の基礎となる解剖、生理、生化学、社会医学などを学んだ上で、臨床医学の知識と技術を学ぶわけですが、２年時末の進級試験に合格すると、問題解決型学習（Project-Based Learning（PBL））チュートリアルで課題解決と学習の仕方も学びます。これは、問題解決に必要な知識を教科書や新刊雑誌などから深く広く情報収集して自分の知識としてまとめ上げ、その学習内容を相手にわかるようにプレゼンテーションし、グループ討議をすることによって、与えられているテーマの問題解決を図るという勉強方法です。

このようなアクティブ・ラーニングによって、疾病の知識を得ると同時に、プレゼンテーション技能やコミュニケーション能力を身に付け、臨床医、研究者に不可欠な“ひとのはなし”をよく聴く心を養います。これらの過程が、現実の患者に相対したときの態度と心構え、問題点を発見するための調査と思考方法、その解決へ導き、指導するためのスキルを醸成します。３年時からは、午後から各研究室に配属され、研究者の直接指導を受けながら９か月間研究を遂行し、研究発表を行う「研究室配属」も準備されています。研究が面白くなれば、大学院に入ってそのまま研究を続け、学位を取得して博士になれるMD-PhDコースも選択できます。そのほかにも、米国のテキサス大学やドイツのハノーバー医科大学、韓国のソウル大学などに短期留学して研究を行うチャンスもあります。このように、徳島大学医学部は自ら考え、問題を解決できる能力、グローバルに活躍できる能力を育みます。

本学蔵本キャンパスにおいては、医学、栄養学、看護・保健医療学を学べる医学部、歯学部と薬学部が同敷地にあり、全人的医療の実践に必要な全ての領域を備えた、チーム医療を担う人材の育成機関としての体制が確立しています。また、ご紹介させていただきたいのが、本学が初めて設置した附置研究所である先端酵素学研究所のことです。平成28年４月に新設されたこの研究所では、酵素をはじめとするタンパク質の分子機能研究を基盤に、ゲノムから個体に至る生命情報を統合的に理解する先端的な基礎医学研究を推進し、世界に向けて先導的な成果を発信していくことで、健康長寿社会の実現に向けた難治性疾患および慢性疾患、とりわけ免疫難病と糖尿病の根本的病態解明と治療法の開発を目指しています。このような研究所が身近にあって密接に連携して教育・研究を担うという環境に在ることは、世界を舞台に活躍する一流の研究者たちが、皆さんを研究指導してくれるチャンスに恵まれているということです。

医学は単なる一つの科学分野ではなく、多くの科学に根差し、その科学の成果を人類の幸福にどう適用するかを、医療を受ける人の立場に立って考える学問です。医療人とは、この高度な生命科学に立脚した医学を十分に理解し、これを実践するための技術を修得するだけでなく、ひとに“徳”を施す“人間性”が求められるプロフェッションです。是非とも在学中に、全人的医療を実践する医療人としての使命感を培うとともに、常に客観的に自己評価ができるよう自己開発を行ってください。６年後の君たちを楽しみにしています。

目次 CONTENTS

巻頭言…… 1
新入生の皆様へ…… 2
先輩から医学部紹介…… 4
学友会活動…… 5
医学部行事予定…… 5
セントポール大学フィリピンとの学術交流報告 …… 6
徳島医学会報告…… 7
第64回徳島大学解剖体慰霊祭 …… 7
蔵本祭…… 8
海外留学体験記…… 9
寄附講座……11
数字で見る医学部……12
新任教職員ご挨拶……13
新任准教授紹介……13
退職者ご挨拶……14
白衣授与・Student Doctor 認定証授与式 ……15
受賞者紹介（教員）……15
受賞者紹介（学生）……16
編集後記……16

新入生の皆様へ

医学科長　赤　池　雅　史

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。少子高齢化社会を迎え、予測困難な未来を切り開いていくために、医療の世界では、高い専門性を持つとともに、他者と協働できるコミュニケーション力などの汎用性を有し、さらに、課題を発見し、それを解決していく創造的能力を有する人材が求められています。このような能力を獲得するには、一方的に伝授された知識を覚え、正解を探すことから脱却し、自ら学び、行動しながら、常に自分を振り返り成長していく学修態度（省察）が必要です。医学科には、基礎医学研究に興味のある学生をサポートするためのサークル活動であるLab部があり、２年次２月から３年次11月には約10か月にわたる研究室配属（医学研究実習）で、本格的な医学研究を行うことができます。また、症例シナリオを用いた自己決定型学習であるPBLチュートリアル、シミュレータや模擬患者を活用したシミュレーショントレーニング、医療系の他学部・学科学生との専門職連携教育、徳島大学病院や学外関連病院でのクリニカルクラークシップなど、アクティブラーニングを取り入れた臨床医学科目が充実しています。さらに、テキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンター（米国）、ハノーバー医科大学（ドイツ）、ソウル大学校（韓国）などでの海外留学プログラムも設けています。このほか、運動系や文化系サークルの活動も充実しています。本学での学びを通して、皆さんが優れた医師に成長していくことを楽しみにしています。

新入生の皆様へ

医科栄養学科長　髙　橋　　章

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これからの大学生活への期待に胸を膨らませていることと思います。

現在、健康を維持・増進する栄養学が果たす役割は益々大きくなっています。そして、医科栄養学科の学生である皆様は、栄養学の教育・研究において指導的役割を担うことが期待されています。この状況に対応できるように、平成26年度に「栄養学科」から「医科栄養学科」へと改組した本学科では、臨床系の新しい研究分野（疾患治療栄養学分野）を開設し、病院栄養部と共同で臨床栄養学の教育をより充実させる新しい教育カリキュラムを準備しています。さらに、大学院前期課程および後期課程では、病院における臨床栄養学研修や国内外の研究センターとの連携による人的交流などを行っています。これらを通して、疾患の原因を解明し、それを栄養学的に予防・治療に貢献できる管理栄養士や研究を養成する環境が整っています。

これからの栄養学の歴史を創るのは皆様です。医科栄養学科では、他の人と異なる点は特徴・個性として重要視されます。自分にしかできないことを見つけ出し、さらに磨いてください。

大学生活をスタートする皆様へ

保健学科長　雄　西　智恵美

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。保健学科の教員、在校生一同、ご入学を心より歓迎します。大学生活の中では、専門的な知識・技術・態度を身に付けることはもちろん、選挙権の獲得など大人としての権利や義務を獲得することにもなるでしょう。これからの時間は皆さんにとって、自分の情熱を注ぐことができる仕事や将来像を具体化するとともに、自分らしい生き方の基盤を作る大事な時間になるはずですので、積極的に多くの人と出会い、様々なことに挑戦してほしいと思います。

蔵本キャンパスには、医学部、歯学部、薬学部の３学部があり、医学部は医学科、医科栄養学科、そして保健学科の３学科で構成され、人的、物的にも豊かな学習資源に溢れた学びの場です。大学院で学ぶ先輩たちや留学生との出会い、そして、多くの医療職が働く大学病院が身近にあることは、医療人を目指す皆さんにとって、現実的な刺激が得られる大変恵まれた環境です。また、保健学科では、フロリダアトランティック大学（米国）、メトロポリア応用科学大学（フィンランド）、セントポール大学フィリピン（フィリピン）およびプリンスオブソンクラ大学（タイ）との交流を締結し、短期留学や英語プログラムを設けています。多様な価値や文化を持つ人や社会とのコミュニケーションは、新しい考え方や発想を生み出す源であり、これからの医療を担う皆さんの力になるものと思います。

この総合的な医療学習環境をフルに活用して、充実した大学生活を送られることを心より期待しています。

新入生の皆さんへ

医学科４年次　宮口　昂樹

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。地元を離れこの春から一人暮らしを始める方も多いことでしょう。これから送る新しい環境での生活に多くの期待や不安を抱いていることと思います。大学生活は今まで過ごしてきた高校生活と異なり、多くのものを自分の意思で決定し行動しなければいけません。例えば、授業に毎回出ずとも先生から咎められることはそうありません。大学での生活を充実したものにするのも怠惰なものにするのも自分次第であり、いつまでも受け身の姿勢でいるのではなく、積極的に学ぼうとする姿勢が必要となってきます。試験範囲の膨大さも、試験内容の難しさも、高校のときとは比べものになりません。要領の良さも大事ですが、どれだけ多くこつこつと勉強したかで理解度も変わってきますので、毎日の講義や日頃の自主的な学習を大切にするべきだと思います。ここまで言うと少し構えてしまうかもしれませんが、私が思うに、高校のときの数学や物理などよりも医学の方が内容も興味深く、勉強して新しいものを知っていくことが楽しいです。自分の知りたいもの、深めたいものを学習できるのが大学の魅力だと感じています。また、大学生活では勉強がもちろん基本ではありますが、サークル活動やアルバイト、新たな趣味・楽しみなどに没頭することも大切です。むしろ勉強以外のものに真剣に取り組み、たくさんのものを経験することが人間としての成長を促してくれると思いますので、大学のうちにチャレンジしたいものにトライしてほしいと思います。皆さんが有意義な大学生活を送られることを願っています。

医科栄養学科４年次　近藤　　翼

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。多くの方は高校から入られると思いますが、大学は高校よりも「自由」な場所です。授業以外の時間で縛られることはあまりありません。部活動に打ち込んだり、アルバイトをして、お金を貯めて自分の好きな物を買ったり、友達と旅行をしたり、新しい趣味や分野に挑戦してみたりなど数えきれないほど様々なことができます。しかし、自分にとって好きなこと、やりたいことを見つけないと、大学生活を「自由」に満喫することはできません。そのために大切なことは、人との繋がりを大切にすることです。大学は、これまでの人生で最も色んな人に触れることができる場所であると私は考えています。同期の仲間をはじめ、学科、部活動やアルバイト先の先輩・後輩たちとの繋がりの中で、今まで知る由も無かったことを知り、経験することができます。その中には、自分の好きなこと、やりたいことを見つけるヒントが必ずあるはずです。私は、１年次の時に先輩から阿波踊りに誘われたことがきっかけで、県外からの下宿生で初心者でしたが、参加３年目の昨年には、踊りや楽器もできるようになるほど打ち込み、阿波踊りが大好きになりました。皆さんにも、これぞというものを是非見つけていただきたいと思います。（医科栄養学科では阿波踊りにも力を入れています。新入生の皆さん、気軽に参加してくださいね。）

大学生活の良し悪しを決めるのは、自分次第です。皆さんが充実した大学生活を送られることを心から応援しています。

保健学科看護学専攻４年次
久保　宏稀

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。厳しい大学受験を乗り越え、晴れて大学生になられたことを心からお祝い申し上げます。地元を離れ、大学生として新しい生活を迎えるにあたり不安もあるかもしれませんが、同時に期待もあるでしょう。勉強、サークル、アルバイト等、大学生でしかできない経験を沢山してほしいと思います。看護学専攻では、１年次に一般教養と専門科目、２年次からは主に専門科目を学びます。高校とは違った内容を勉強するにあたり戸惑うこともあるでしょう。しかし、私達にはいつでもサポートしてくれる先生方、クラスメートがいます。心配の必要はありません。しっかりと遊ぶことも忘れず、切り替えを大切にして、この４年間を謳歌しましょう！

保健学科放射線技術科学専攻４年次
北條　琢人

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長い受験生活お疲れ様でした。いよいよ待ちに待った大学生活が始まり、期待と同時に不安もあることでしょう。大学生活は中学校や高校と違い、自分がやってみたいことに挑戦する場と時間がたくさんあります。ぜひこの長い時間を使って学業や部活動、サークル、アルバイトなどの新しいことに挑戦し、今までやりたかったことを心ゆくまでやってみたり、多くの人との出会いを経験したりしてほしいと思います。最初はわからないことが多かったり、何もしない時間が増えて戸惑ったり、やる気を無くしたりしてしまうことがあると思いますが、ゆっくりと本当に自分がやりたいことを見つけてください。新入生の皆さんが夢と希望で溢れる大学生活を送られることを心から祈っています。

保健学科検査技術科学専攻４年次
六車　京香

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい仲間と出会って、これからの大学生活に色々な思いを抱いていると思います。「20人弱という少人数で仲が良くて楽しく、それでいてお互いを高め合える」というのが検査技術科学専攻の良さです。

勉強や部活、アルバイト、旅行など自分のやりたいことはどんどん挑戦してみてください。学年が上がるにつれて忙しくはなりますが、自分次第で有意義な生活を送れると思います。不安なことがあればいつでも私たちに聞いてください。皆さんの大学生活が充実したものとなりますように。応援しています。

先輩から医学部紹介

新入生のみなさんご入学おめでとうございます

講義について

医学科４年次　松　本　峻　和

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私からは皆さんが受けられる講義について紹介させていただきます。

まず、高校の授業とは異なり、大学では履修登録といって、興味のある講義や人気のある先生の講義などを自分で選択し、自由に時間割を組むことができます。空きコマを利用して勉強やスポーツ、趣味などに興じることもできるので、時間を有効に活用しましょう。

次に、講義の内容についてです。１年生が受けることのできる講義は、教養科目と専門科目の二つに大別されます。教養科目は主に常三島キャンパスで受講し、「歴史と文化」、「自然と技術」、「人間と生命」、「生活と社会」の4分野に加えて、英語・フランス語・中国語・ドイツ語などの語学や、数学・物理学・化学・生物学といった基礎科目、さらには高校でいう体育の授業のように、スポーツに取り組むウェルネス総合演習なども含まれています。教養科目は様々な学科の人たちが受講するので、友人の輪を広げられるいい機会です。専門科目は主に蔵本キャンパスで受講し、学科別に専門性の高い講義や実習を通して医学の基礎を学びます。覚えるべき分量が多く難しい内容もありますが、それらは２年生以降の基礎医学や臨床医学につながる分野でもあるので、１年生のうちからしっかりと学習しておく必要があります。

大学では自ら学ぼうとする姿勢が大切です。今しかできない様々なものに挑戦し、有意義で実りある学生生活をこの徳島大学医学部で送ってほしいと願っています。

部活動・サークル活動について

医科栄養学科４年次　奥　村　陽　介

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私からは部活動・サークル活動について紹介します。

徳島大学には様々な部活動･サークル活動があり､蔵本キャンパスの学生が常三島キャンパスの部活動・サークル活動に入ることも可能です。そのため、部活動・サークル活動に所属することによって様々な学科の人と知り合うきっかけができ、交友関係が大きく広がります。また大学では、高校や中学の部活動と異なり、部やサークルの運営を所属している学生が主体となって行うため、同級生はもちろん先輩方や後輩たちとも仲良くなることができます。

入学し、どの部活動・サークル活動に入るか悩んでいる人は多いと思います。まずは自分が興味を持った部活動・サークル活動にどんどん見学に行ってみましょう。部活動・サークル活動の多くは、４月を新歓期としてお花見やバーベキュー等のイベントを開催しているため、その場で先輩方や同級生と仲良くなることができ、部活動・サークル活動の雰囲気や活動時間等気になることを直接先輩方に聞くこともできます。いろいろな部活動・サークル活動のイベントに参加してみてください。

新入生の皆さん、ぜひ自分に合った部活動・サークル活動に入って、充実した大学生活を送りましょう！

大学生協について

保健学科放射線技術科学専攻４年次　松　尾　拓　真

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学内には大学生協というものがあり、皆さんの大学生活を支えてくれる存在となっています。

蔵本キャンパスには、食堂の「SAKU-LA（さくら）」、コンビニの「LUCK-LA（らくら）」、書籍や文具を取り扱っている「SHOKO-LA（しょこら）」、カフェテリアの「KURA-LA（くらら）」があります。

「さくら」は、お昼になると沢山の学生や教職員が利用しています。メニューも豊富で、期間限定のものも多いので飽きることがありません。ひとり暮らしの方も栄養バランスの良い食事を朝昼晩とることができるので大変便利です。

「しょこら」では、講義で使用する書籍や参考書を購入することができます。また、自動車教習所の申し込みや帰省の際などのバスの申し込みを行うことができます。

「らくら」では、食料品や雑貨を購入することができ、お菓子の種類も充実しています。勉強の合間、休憩にいかがでしょうか。

「くらら」では、お弁当や飲み物を購入することができます。購入したお弁当を隣接しているカフェテリアスペースで食べることもできます。また、空いている時間帯にはこのカフェテリアスペースを勉強場所として利用している学生もいます。ぜひ利用してみてください。

簡単ではありますが、大学生協について紹介させていただきました。是非活用して、大学生活を楽しんでください。

学友会活動

●運動部

	クラブ名	助言・指導教員
1	水上競技部(男女)	河合　慶親
2	弓道部(男女)	丹黒　章
3	硬式野球部	北川　哲也
4	柔道部	谷　憲治
5	空手道部(男女)	丹黒　章
6	卓球部(男女)	香美　祥二
7	バドミントン部(男女)	西岡　安彦
8	サッカー部	髙橋　章
9	ゴルフ部(男女)	苛原　稔
10	バスケットボール部(男女)	川人　伸次
11	合気道部(男女)	上野　淳二
12	水泳部(男女)	松香　芳三
13	硬式庭球部(男女)	福井　清
14	軟式庭球部(男女)	森　健治
15	陸上競技部(男女)	福井　清
16	準硬式野球部	島田　光生
17	ラグビー部	鶴尾　吉宏
18	剣道部(男女)	久保　宜明
19	バレーボール部(男女)	岡久　稔也

●文化部

	クラブ名	助言・指導教員
1	ジャグリングサークル	渡辺　浩良
2	軽音楽部	橋本　一郎
3	茶道部	竹谷　豊
4	地域医療研究会	谷　憲治
5	栄養学研究部	酒井　徹
6	外国語研究会	福井　清
7	室内楽同好会	赤池　雅史
8	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	赤池　雅史
9	先端医療研究会	佐田　政隆
10	IAHSS(保健学科国際交流サークル)	LOCSIN ROZZANO DE CASTRO

※入部等のお問合せについては、医学部学務課学生係（☎088－633－7982）へご連絡ください。

医学部行事予定（平成30年４月～平成30年９月）

４月２日(月)～６日(金)
　医学部新入生オリエンテーション
　SIH 道場～アクティブ・ラーニング～
　（医学科、医科栄養学科、保健学科）
４月３日(火)　学生定期健康診断
　（医学科・医科栄養学科１年次）
４月４日(水)　学生定期健康診断
　（保健学科１年次）
４月６日(金)　徳島大学入学式
　医学部新入生オリエンテーション
　（13:30～大塚講堂）
４月７日(土)　医学部新入生研修
　（於：大塚講堂ほか）
４月９日(月)　新入生授業開始
　（医学科、医科栄養学科、保健学科）
４月23日(月)～27日(金)、５月７日(月)
　学生定期健康診断
　（医学科・医科栄養学科・保健学科２年次以上）
８月４日(土)～　西日本医科学生総合体育大会（主管：三重大学）
８月上旬　徳島大学オープンキャンパス（学部説明会）
　（医学科、医科栄養学科、保健学科）

セントポール大学フィリピンとの学術交流報告

保健学科国際交流委員長
臨床腫瘍医療学分野　教授　近　藤　和　也

２月15日(木)から２月20日(火)までの日程で、フィリピン共和国のセントポール大学フィリピン（St. Paul University Philippines（SPUP））から同大学の学長をはじめ３名の教員が医学部および大学院保健科学教育部へ訪問いただき、学術交流を行いました。

SPUPとの交流は、看護技術学分野のLOCSIN教授がSPUPの博士課程（看護学博士）客員教授（看護理論、看護哲学、質的研究）を長くされていたことに端を発します。平成27年からは、看護管理学分野の谷岡教授が、SPUPの博士課程（看護学博士）の客員教授（研究資金申請手法、多変量解析手法）として年に３回程度授業を行っているほか、平成28年３月には、LOCSIN教授、谷岡教授、岸田教授（女性の健康支援看護学分野）及び近藤の４名でSPUPを訪問し、学部学生の英語研修、博士後期課程の大学院生の交流、共同研究の推進などについて話し合われ、同年12月、同大学と本学の医学部および大学院保健科学教育部との間で学生交流に関する覚書が締結されました。

２月15日(木)には、「グローバル教育による国際化の機会（Opportunities for internationalization through global education)」と題して、コンセプション・ドゥユーガン異文化言語研究所長による大学院のFD研修会が開催され、internationalizationの目的と効果についてご紹介いただきました。

２月16日(金)には、「フィリピンにおけるがん看護の実情－がん患者のライフステージに焦点をあてて－（Circumstances of Oncology Nursing in the Philippines - Focusing on the Life Stage of Patients with cancer -)」と題して、エリザベス・バウア看護保健学部長によるがん高度実践看護師ワーキンググループ講演会が開催され、両国のがん診断治療を踏まえて、高度実践看護師（専門看護師：CNS）が目指すものについての活発な質疑応答が行われました。CNSを目指す学部学生や大学院生にとって、非常に有意義な内容でした。

２月17日(土)には、「英語のコミュニケーション力の上達戦略（Communication strategies towards learning spoken and written English)」と題して、ドゥユーガン先生による英語ミニリトリート（英語セミナー）が開催され、来年３月にSPUPで行われる英語セミナーと同じ形式で行っていただきました。参加した８名の学部学生は、英語で表現する楽しさをそれぞれに肌で感じていたようです。

２月19日(月)には、大学院保健科学教育部のオープンキャンパスを行いました。雄西教授（教育部長、ストレス緩和ケア看護学分野）による本教育部の概要と研究成果の講演に続き、シスター・メルセディータス・アン学長による特別講演（「グローバル化と国際的研究（Globalization and International Research)」）が行われました。同学長におかれましては、心理学の学士号、法学の修士号、教育管理学の博士号をお持ちで、銀行での弁護士としての活動を経て、37歳でセントポール教会のシスター兼大学長になった経緯があります。こうしたことから、国際的に通用する英文での研究成果発表の重要性について解説いただくとともに、学長職を続けながら研究活動も行っている日々がとても楽しいという旨の話を力強くいただきました。その後、本教育部の教授と大学院生が、各領域で行っている研究について紹介しました。両大学において研究しているテーマが明確となり、共同研究に向けた好機となりました。なお、以上の講演と運営は全て英語によるものでした。

SPUP一行は、２月19日(月)には苛原研究部長と丹黒医学部長を、２月20日(火)には野地学長をそれぞれ表敬訪問され、学部学生の英語研修、大学院生（博士後期課程）の学生交流、共同研究の推進、日本語研修センター構想などについて話し合われました。今年の12月には、SPUP主催の国際会議がフィリピン共和国のトゥゲガラオ市で開催される予定です。本学からも代表が参加し、基調講演などを行うことを検討中であり、今後一層の交流を予定しております。

徳島医学会報告

■ 第256回徳島医学会学術集会（平成29年度冬期）

病理解析学分野　教授　香川典子
臨床薬理学分野　教授　石澤啓介

第256回徳島医学会学術集会は、平成30年２月11日（日）に徳島大学大塚講堂で開催された。今大会の大学側担当は、病理解析学分野教授の香川典子と臨床薬理学分野教授の石澤啓介が務めた。また、実務については、生体機能解析学分野准教授の冨永辰也先生と臨床薬理学分野講師の座間味義人先生が担当した。

香川の開会挨拶に続き、３名の教授就任記念講演が第１会場（大ホール）で行われた。糖尿病･代謝疾患治療医学分野（寄附講座）の粟飯原賢一特任教授による「生活習慣病患者における血管合併症予防を目指した基礎研究と臨床的実践」、徳島大学病院病理部の上原久典教授による「個別化治療のための分子病理診断の展望」、徳島大学病院 ER・災害医療診療部の大藤純特任教授による「Post Intensive Care Syndrome（PICS）の概念と対策：睡眠障害と譫妄予防を中心に」の順に講演が行われた。

引き続き、ロビーの１階と２階（北側および南側）を使用した第２会場において、一般および若手のポスターセッションが行われ、総計33演題の研究成果が発表され、質疑・討論が活発に行われた。

午後からは、第１会場において、丹黒章徳島医学会会長と齋藤義郎徳島県医師会会長の挨拶の後、前回選出された第39回徳島医学会賞および第18回若手奨励賞の授与式が行われた。徳島医学会賞は、大学側は藤田結衣先生（大学院医科学教育部博士課程４年）、医師会側は猪本享司先生（医療法人いのもと眼科内科）に、若手奨励賞は、山口純代先生（徳島大学病院卒後臨床研修センター医員）と宮本亮太先生（徳島県立中央病院医学教育センター）に授与された。引き続き、藤田先生による「BMP4シグナルが作用するポドサイト障害発生機序の解析」、猪本先生による「当院における SGLT2阻害薬80症例での検討―SGLT2阻害薬は最強の糖尿病腎症治療薬である―」の受賞記念講演が行われた。

公開シンポジウム「加齢で起こる病気の検査と治療薬」では、４名のシンポジストによる講演が行われた。病棟薬剤師としての立場から徳島大学病院薬剤部助教の今西正樹先生による「検査値を変えるくすりに注意！」、病理医としての立場から徳島赤十字病院病理診断科副部長の山下理子先生による「びょうり（顕微鏡）検査と，がんのおくすり」、糖尿病やその合併症と鉄過剰症の研究をされている薬理学分野准教授の池田康将先生による「糖尿病における微量栄養素「鉄」の役割」、カルシウム代謝をご専門にされている生体機能解析学分野教授の遠藤逸朗先生による「骨粗鬆症を防ぐために」の講演が行われ、参加した市民からの質問もあった。

最後に、今回のポスターセッションの中から選考された第40回徳島医学会賞と第19回若手奨励賞の発表が大塚明廣徳島県医師会副会長から発表された。徳島医学会賞は、大学側は石澤有紀先生（薬理学分野講師）､医師会側は遠藤健次先生（徳島県整形外科医会）に、若手奨励賞は、平岡淳一郎先生（徳島大学病院卒後臨床研修センター医員）と川田知代先生（徳島県立中央病院医学教育センター）に決定した。その後、石澤が閉会挨拶を行って、盛況のうちに閉会した。

寒い時期で連休中の開催となったが、参加者は一般の30名を含めて総数175名であった。降雨や積雪が続いていた中で当日晴天に恵まれたことは、担当・準備をしてきた者にとって天からのご褒美のように思われ、有り難かった。今大会の開催にあたり、ご協力いただいた徳島県医師会、徳島医学会事務局関係各位ならびに関係スタッフの皆様に深謝申し上げたい。

第64回 徳島大学解剖体慰霊祭

蔵本事務部医学部学務課

平成29年10月6日（金）15時から徳島大学大塚講堂において、第64回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者540人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体してくださった方々の亡き御霊6,393柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

蔵　本　祭

Amazing Craft

第33回蔵本祭実行委員長　医学科５年次　田　中　一　輝

第33回蔵本祭実行委員長を務めさせていただきました、田中一輝です。平成29年度も、学術講演を含む計４日間に渡って様々なイベントを開催することができました。

今回の蔵本祭は、これまでに無いような新しい物事をしようという意志を込めて「Amazing Craft」をテーマとして開催しました。例年より1か月早い開催で常三島祭と別日になったことで、常三島祭とのコラボ企画など新たな催しも行いました。蔵本祭の開催が早まり準備が忙しかったですが、例年に負けないぐらいの蔵本祭を作り上げていこうと実行委員一同頑張りました。

当日は天候に恵まれ大きな問題も無く、何とか全てのイベントを無事に終えることができました。また、今回は広報活動の場を増やしたり、チラシをカラーにしたりしたことで、より多くの方々に蔵本祭を知っていただくことができたと思います。

蔵本祭に携わってみて、本学関係者をはじめ、商店街やメディアの皆様など沢山の方々に支えられて蔵本祭が成り立っていることを学びました。後輩の皆さんにおかれましてもこのような貴重な経験を得ることができるよう、今秋に予定されている第34回蔵本祭の成功をお祈りいたします。最後になりましたが、第33回蔵本祭開催に当たりご尽力くださいました皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

栄養学展を終えて

第33回蔵本祭栄養学展委員長　医科栄養学科４年次　和　田　京　子

栄養学展は蔵本祭で出展する展示のひとつで、医科栄養学科の毎年恒例のイベントの一つでもあります。医科栄養学科の２、３年生から有志を募り、毎年ひとつテーマを考え、そのテーマにあった展示をしたり料理を無料で提供したりするもので、医科栄養学科ならではの催し物といえます。

平成29年度の栄養学展は「ビタミン」がテーマとなりました。ビタミンは体内だけでは必要量を作り出すことができず、食品から摂らなければなりません。しかし、ビタミンとひと言で言っても、ビタミンには各々に特徴、性質、欠乏症などが存在します。そんなビタミンを意識して摂取していただきたいという思いから、今回、各ビタミンを多く含む食材を用いてビビンバとして提供させていただきました。

当日は多くの方にアンケートを実施し、学生をはじめ地域の皆様などからも貴重なご意見ご感想をいただくことができました。そして多くの方々からの医科栄養学科への期待を知り、また、お褒めの言葉も多数頂戴し、私たちは皆様の期待に応えて栄養学展を成功させることができたのだと感じましたが、同時に私達が未熟であることも感じました。この経験を活かし、医科栄養学科の名に恥じない活躍ができるよう勉学に励みたいと考えております。

最後に、栄養学展にご来場いただいた皆様、栄養学展委員と実行委員の方々と、ご協力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。

模擬病院を終えて

第33回蔵本祭模擬病院委員長　保健学科看護学専攻３年次　岡　田　悠里亜

模擬病院は、看護学専攻１、２年生の中で委員を集めて運営しております。毎年、学内だけではなく、学外の方にも多く来訪していただき、看護学専攻としても力を入れているイベントの一つです。

平成29年度の模擬病院では、手浴、身体測定、血圧測定、赤ちゃん抱っこ・妊婦体験に加え、徳島大学と徳島文理大学の学生たちによる「思春期ピアカウンセラー」のブースも設け、ピアカウンセラーの活動を知ってもらうことを目的に、来てくださった方たちに向けて、説明会やワークショップを行いました。

当日は400名以上の方に来場していただきました。夏の暑さが残る中、たくさんの方に来場していただき感謝しております。来場していただいた方の中には、「何度も来た中で今年が一番良かった」と言ってくださった方がいらっしゃったり、様々なアドバイスをくださったりと、来年度以降の模擬病院をより良いものにできるようなご意見をたくさんいただきました。今回の反省点は来年度の模擬病院に反映させ、今年度よりもたくさんの方に満足していただけるようなものを作り上げていくことができるように努力してまいります。

最後になりましたが、模擬病院にご来場いただいた皆様、物品準備や会場設営のために休みにもかかわらず協力してくださった先生方に心より御礼申し上げます。

海外留学体験記

トリブバン大学　診療参加型臨床実習　報告

医学科６年次　髙　礒　甫　隆

昨年11月、ネパール連邦民主共和国の Tribhuvan University Teaching Hospital（TUTH）にて1週間の眼科実習をさせていただきました。TUTH はネパール国内で最高峰の大学病院で、アジア最貧国と言えども医療物資や人材は十分に備わっている印象でした。

今回、私は主に外来での実習をさせていただきました。患者と医師はネパール語で会話がなされますが、医師同士の医学的な会話は英語で行われることもあります。患者は毎日200人以上来るようで、広い診察室には早く診察してほしい患者の皆さんが押し寄せていました。そんな中で、眼科レジデントたちが私に細隙灯をのぞかせてくださったり、所見の解説をしてくださったりしました。現地で支援活動を行う内藤先生の働く様子も見せていただき、大変学びの多い1週間となりました。

最後に、このような機会を与えてくださった眼科学分野の三田村先生、内藤先生をはじめ、お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。

ハノーバー医科大学　短期留学　報告

医学科４年次　小　林　陽　花

昨年の８月､ハノーバー医科大学の神経内科に留学しました。前半の２週間は、Alzheimer unit 、Stroke unit などの病棟で見学し、後半の２週間は、EMG（筋電図）などの検査を見学しました。人種差や食、移民文化の違いなどにより、日本と異なる症例を見ることができ、貴重な経験ができました。病院の先生方や学生たちは、年齢や立場に捉われず名前で呼び合い、和やかな雰囲気でした。学生たちは、疑問に思ったことやしてみたい実習など自ら提示して能動的に学んでいるのが印象的でした。休日は、現地の学生や留学生たちと幅広く交流を持つことができ、充実した時間を過ごせました。

今回の留学で、世界の広さ、他国の医学生たちの熱さに圧倒され、私ももっと広い視野を持って能動的に勉学に励もうと思いました。このような素晴らしい機会を与えてくださった神経内科の野寺裕之先生はじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

フロリダアトランティック大学　トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム　報告

保健学科看護学専攻４年次　寺　田　万莉奈
（平成30年３月卒業）

文部科学省による留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」の奨学金を得て、フロリダで看護留学を行いました。４週間 Florida Atlantic University へ通い、その後の２週間「Give Kids The World」という NPO 組織で難病の子供と家族を対象にボランティアを行いました。目標は、看護の哲学ケアリングを学び、ボランティアで実践することでした。どちらも貴重な経験でしたが、一番の思い出は予期せぬハリケーンの到来でした。高校が避難所となり、４日間泊まり込みで看護学生としてボランティアを行いました。避難者の血圧測定や不安を傾聴し、できることを探しては実行しました。最後の日に、ある女性が私に「Thank you so much for CARING me.」と言い、他者を純粋に思いやるケアリングが具体化された瞬間を感じました。これから看護師として働く確かなマインドセットができました。最後に、私の留学を実現させてくださった Locsin 先生（看護技術学分野教授）、「トビタテ！留学 JAPAN」のご担当者様および国際課の皆様全てに厚く御礼申し上げます。

南イリノイ大学ＣＥＳＬ　英語研修　報告

保健学科看護学専攻４年次　伊代野　真紀子
（平成30年３月卒業）

昨年８月中旬からの１か月間、南イリノイ大学カーボンデール校に留学させていただきました。自分の専攻と関係の無い語学留学でしたが、様々な国や専攻の人と関わり、色々な考え方に触れた貴重な経験となりました。非常に意欲が高く知識豊富な他国の学生達とのグループワークや討論は、勢いが凄く、刺激的で、自分がいかに何に対しても自分の意見を持たずにいたか痛感させられました。自分の意見を咄嗟にまとめて英語で伝えることは難しかったですが、鍛えられて少しは成長できたと思います。日本の医療への印象や、出身国の医療事情、様々な考え方を聞くこともできましたし、自分の考えも話せました。また、人生観だけでなく、宗教的な価値観や習慣の大きな違いを体験したことは新鮮で印象的でした。お互い理解できないことや混乱や誤解もありましたが、それもいい勉強になりました。

滞在中は、北米横断99年ぶりとなる皆既日食も見ることができました。カーボンデールは日食で暗くなる時間が全米最長の場所で、綺麗なダイヤモンドリングも見られ、街全体が大興奮でした。休日には他の州にも行き、充実した日々を送ることができました。

この留学で考えたこと、気付いたことを忘れずに今後に活かしていきたいと思います。最後に、今回の留学にあたり大変お世話になりました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

メトロポリア応用科学大学　留学生受け入れ秋季プログラム　報告

保健学科看護学専攻４年次　横　田　真梨菜

３年次の夏休みの１か月間、フィンランドのメトロポリア応用科学大学へ留学させていただきました。私の留学目標は、日本とフィンランドの看護教育の違いを知ることでした。ひとりで行くということで不安もありましたが、現地に着いてみると新しい出会いや学ぶことの多さに驚きました。フィンランドの学生とだけでなく、他国からの留学生とも交流を深め、お互いの教育や国について話し合うことができました。また、かなり短い期間の留学でしたので、空き時間があれば、ヘルシンキの街へ出かけて現地の生活に慣れるようにしました。

今回の留学で、今までの自分に足りなかった積極性やコミュニケーション力を伸ばすことができました。サポートしてくださった先生方、そして関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

ハノーバー医科大学　交換留学プログラム　報告

医科栄養学科４年次　藤　元　　萌

私は、昨年８月にドイツのハノーバー医科大学（ＭＨＨ）、構造生物学の研究室にインターンシップに行ってきました。ハノーバー医科大学の研究分野では、大学院生が学ぶ場として、仲間同士で議論したり、オンとオフのメリハリを付けたりしながら、熱心に研究を進めていました。私は、タンパク質構造、Ｘ線結晶解析、コンピュータプログラミングを用いた分析方法など学びました。学部３年生として研究室に初めて所属したので、大きな不安もありましたが、未知であるからこそ一心不乱に学ぶことができました。先生方、村澤医学部国際コーディネーター様、医学部学務課ご担当者様をはじめ、ハノーバー医科大学においても多くの方からご支援をいただき、貴重な経験ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

Prof. Matthias Preller and Lab members

Students in Hannover

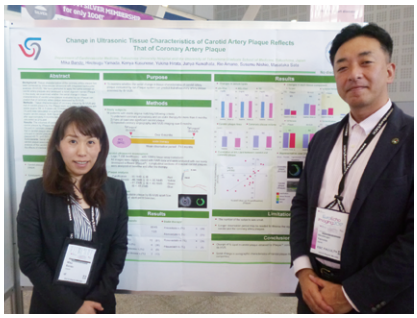
寄附講座「地域循環器内科学分野」紹介

地域循環器内科学分野　特任教授　山田博胤　特任助教　坂東美佳

この度、高松市からの寄附により地域循環器内科学分野が設置されました。これに伴い、昨年11月１日付けで私が特任教授を、12月１日付けで坂東美佳先生が特任助教を拝命いたしました（写真１）。当分野が設置された目的は、高松市民病院において循環器疾患の診療を行って地域の医療に貢献することと、本学において循環器病学の研究及び教育を推進することです。当面は、水曜日に山田が、それ以外の曜日は坂東が高松市民病院で診療を行い、それ以外は両名とも本学で診療、研究、教育に従事します。

高松市民病院は、施設の老朽化、医師の高齢化、医師不足などが深刻で、患者数が減少し、極度の経営不振に陥りました。このような中で、本年秋に新築移転する予定で、「高松市立みんなの病院」として再出発することになりました（写真２）。これを契機に、徳島大学の各分野から医師スタッフの派遣が増え、救急搬送件数や入院患者数も増加してきており、病院全体が活気を取り戻しつつあります。現在の高松市民病院では、急性冠症候群や手術を要するような重症緊急患者こそ対応できませんが、心不全、高血圧緊急症、弁膜症、心筋症、不整脈疾患など幅広い循環器疾患の治療が行えます。これらの疾患の病態把握には私たちが得意とする心エコー図検査が必須であることから、ひとりでも多くの患者の健康に貢献したい所存です。また、心不全の亜急性期から慢性期までのケアをサポートし、高度急性期病院と診療所・介護施設・在宅との間を取り持つ仕事ができないか模索中です。研究面では、本学の循環器内科や超音波センターと連携しながら、超音波医学の発展に貢献できるよう、世界に発信できるエビデンスを構築していきたいと思います。

高松市民病院は、大学病院と比べて各診療科間の連携のハードルが低いことが強みです。今度も先生方のお力添えをいただきながら、地域の医療、そして医学の発展に貢献してまいります。



（写真１）
左から：坂東特任助教、山田特任教授

（写真２）高松市立みんなの病院

寄附講座「地域運動器・スポーツ医学分野」紹介

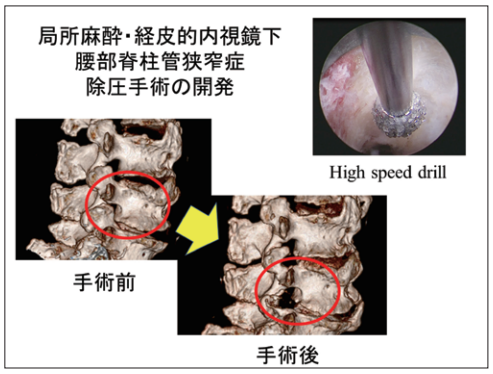
地域運動器・スポーツ医学分野　特任教授（併任）西良浩一　特任助教　岩目敏幸
特任准教授　米津浩　特任助教　山下一太

整形外科診療は、小児から高齢者におけるすべての運動器の疾患をカバーします。現在、高齢化の進む徳島県の地域で問題となっているのは、高齢者の骨粗しょう症を基盤としたロコモティブシンドローム及び発育期少年少女のスポーツ障害です。地域運動器・スポーツ医学分野では、吉野川医療センターを中心とし、本学との連携により、県西部におけるこれら運動器疾患治療の診断と高度専門治療を行うとともに、これからの運動器治療の専門家である整形外科医師育成のための基幹センターとしても機能します。

現在、私と山下特任助教が腰痛を中心とした脊椎治療を、米津特任准教授が骨粗しょう症及び関節疾患治療を、岩目特任助教がスポーツ医学を担当しており、吉野川医療センターと本学において最先端運動器治療を実践しております。特に、内視鏡や関節鏡を積極的に活用し、体にやさしい手術治療を実現しております。また、研究面では、骨量・骨質と体組成の関連、筋量との関連性に加え、姿勢の問題を解明しています。いつまでも若々しい姿勢で自分の足で歩き、寝たきりとならない運動器アンチエイジング治療を開発しております。

高齢者ロコモティブシンドロームの代表的疾患である腰部脊柱管狭窄症については、本学病院は局所麻酔による内視鏡治療を行っている日本で唯一の大学病院です。更なる安全性と適応拡大を目指し、臨床研究や基礎研究を進めております（写真１）。

発育期スポーツの代表障害である野球肘やサッカーでの膝障害に関しては、超音波機器を使い、フィールドにて早期発見・早期治療を行っております（写真２）。



（写真１）

（写真２）

数字で見る医学部

～平成30年３月卒業者の進路状況～

H30. 3 現在

医学科

進路先	合計
徳島大学病院	20
徳島県鳴門病院	3
徳島県立中央病院	7
徳島赤十字病院	9
香川県立中央病院	2
国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター	1
市立宇和島病院	1
国立病院機構函館病院	1
札幌東徳洲会病院	1
帯広厚生病院	1
日立総合病院	1
さいたま市民医療センター	1
成田赤十字病院	1
亀田総合病院	1
国保旭中央病院	1
東京北医療センター	1
東京女子医科大学病院	1
東京高輪病院	1
新渡戸記念中野総合病院	1
東大和病院	1
東京逓信病院	1
川崎幸病院	1
可児とうのう病院	1
名古屋市立大学病院	1
名古屋市立東部医療センター	1
金沢医療センター	2
京都岡本記念病院	1
京都桂病院	2
京都府立医科大学附属病院	2
大阪急性期・総合医療センター	1
大阪警察病院	1
大阪府済生会中津病院	1
北野病院	1
市立ひらかた病院	1
枚方公済病院	1
高槻病院	2
和歌山県立医科大学附属病院	1
岡山済生会総合病院	1
岡山赤十字病院	2
岡山大学病院	2
倉敷中央病院	1
尼崎医療生協病院	2
加古川中央市民病院	1
北播磨総合医療センター	1
神戸医療センター	1
神戸市立医療センター中央市民病院	1
神戸市立西神戸医療センター	2
神鋼記念病院	1
製鉄記念広畑病院	1
西神戸医療センター	1
姫路赤十字病院	1
兵庫県立淡路医療センター	1
六甲アイランド甲南病院	1
興生総合病院	1
広島大学病院	2
手稲渓仁会病院	1
大分岡病院	1
熊本大学病院	1
浦添総合病院	2
中頭病院	1
小計	106
未定	2
合計	108

栄養学科

進路先	合計
社会福祉法人健祥会	1
稲次整形外科病院	1
サンミート株式会社	1
株式会社コスモス薬品	1
合計	4

医科栄養学科

進路先	合計
株式会社大塚製薬工場	1
日亜化学工業株式会社	1
株式会社徳島銀行	1
株式会社うおいち	1
有限会社サンコーファーマシー	1
株式会社スドージャム	1
株式会社オイシス	1
株式会社ラフト	1
医療法人一陽会原田病院	1
藤元メディカルシステム	1
株式会社マツモトキヨシホールディングス	1
株式会社 ABC Cooking Studio	1
エム・シーシー食品株式会社	1
宮崎大学病院	1
KKR 高松病院	1
小計	15
大学院進学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	22
奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科	2
神戸大学大学院農学研究科	1
小計	25
未定	6
合計	46

保健学科：看護学専攻

進路先	合計
徳島大学病院	11
徳島県保健師	5
徳島県教育委員会	2
徳島県職員	1
徳島赤十字病院	1
香川県教育委員会	1
善通寺市役所	1
香川県立病院	1
愛媛大学病院	1
今治市保健師	1
国立国際医療研究センター病院	2
慶應義塾大学病院	1
医療法人豊田会刈谷豊田総合病院	1
福井県保健師	1
京都大学医学部附属病院	2
関西医科大学総合医療センター	1
関西医科大学附属病院	1
医療法人錦秀会阪和記念病院	1
大阪大学医学部附属病院	4
大阪医科大学附属病院	1
大阪赤十字病院	1
国立病院機構大阪医療センター	1
神戸大学医学部附属病院	1
神戸市教育委員会	1
兵庫県立こども病院	2
兵庫県立姫路循環器病センター	1
神戸市民病院機構	8
倉敷中央病院	1
岡山市保健師	1
岡山大学病院	1
山口県済生会豊浦病院	1
大分県教育委員会	1
小計	60
大学院進学	
徳島大学大学院保健科学教育部	6
大阪大学大学院	3
小計	9
未定	2
合計	71

保健学科：放射線技術科学専攻

進路先	合計
徳島県職員	2
徳島赤十字病院	1
香川労災病院	1
松山市民病院	1
松山赤十字病院	1
近森病院	1
仙台循環器病センター	1
浜松医療センター	1
洛和会ヘルスケアシステム	1
愛仁会	1
八尾徳州会総合病院	1
グランソール奈良	1
鳥取赤十字病院	1
倉敷中央病院	1
済生会広島病院	1
国立病院機構中国四国グループ	3
製鉄記念八幡病院	1
千鳥橋病院	1
荒尾市民病院	1
宮崎県職員	1
鹿児島大学病院	1
小計	24
大学院進学	
徳島大学大学院保健科学教育部	4
金沢大学大学院	2
大阪大学大学院	1
広島大学大学院	1
小計	8
未定	3
合計	35

保健学科：検査技術科学専攻

進路先	合計
徳島大学病院	2
徳島赤十字病院	2
JA 徳島吉野川医療センター	2
虹の橋病院	1
川島病院	2
愛知県職員	1
大阪警察病院	1
医誠会病院	1
神戸大学医学部附属病院	2
鳥取大学病院	1
小計	15
大学院進学	
徳島大学大学院医科学教育部	1
小計	1
就職も進学もしない	1
未定	2
合計	19

新任教職員ご挨拶

医療情報学分野　教授　廣　瀬　　隼

平成29年10月１日付けで医療情報学分野教授を拝命いたしました。前任地の熊本大学医学部附属病院では、病院情報システムの管理と運用業務を行いながら、平成27年度より進められている熊本県内全域の医療介護情報を共有化する事業のシステム構築と運用にも携わっていました。本県でも徳島県全域医療介護連携ネットワーク「阿波あいネット」が今年から運用開始となり、来年１月には本学の病院情報システムの更新が予定されています。これまで培った医療情報と地域医療連携の経験を活かして、本県と本学に貢献し、また、教育と研究も充実できるよう職務に精進していく所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

脳神経外科学分野　教授　髙　木　康　志

平成29年10月１日付けで大学院医歯薬学研究部脳神経外科学分野の教授を拝命いたしました。

私は平成３年に京都大学を卒業後、脳血管障害の臨床と脳虚血の研究を中心に行ってまいりました。徳島大学病院の脳神経外科は、病院長の永廣信治先生のリーダーシップの下で脳卒中センターをコアに発展してきた経緯があります。また、研究分野も脳動脈瘤の基礎研究を中心に非常に強力です。この脳神経外科分野をさらに発展させるために力を尽くしたいと思います。

徳島は落ち着いた、暮らしやすい町でこれからが非常に楽しみです。今後とも御指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医用画像情報科学分野　教授　芳　賀　昭　弘

平成29年10月１日付けで医用画像情報科学分野教授を拝命いたしました。

私は今から10年前に東京大学医学系研究科の医学物理教育に携わったことがきっかけで、基礎物理学から医学領域に研究のフィールドを移しました。とは言っても、データからパターンを見つけ出す作業は物理学で行ってきたこととさほど変わりがなく、むしろ医学を知ることで物理学の面白さや役割の大きさを再発見しています。教育においては、学生が多様なキャリアを築くことができるようしっかりとした土台作りに微力ながら貢献していく所存です。

ご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

脊椎関節機能再建外科学分野　特任教授　松　浦　哲　也

平成29年10月１日付けで脊椎関節機能再建外科学分野の特任教授を拝命いたしました。私は平成５年に本学を卒業後、整形外科に入局いたしました。整形外科では関節を中心に臨床・研究・教育に従事してきました。特にスポーツの外傷・障害に興味があり、スポーツ整形外科のメッカである米国のピッツバーグ大学にも２年間留学しました。これまで取り組んできた研究･診療の内容を深め、さらには学生･研修医の教育にも目を向け、当分野や本学に尽くす所存です。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

地域循環器内科学分野　特任教授　山　田　博　胤

平成29年11月１日付けで、地域循環器内科学分野の特任教授を拝命いたしました。

私は鳴門市で生まれ、平成６年に徳島大学を卒業後、徳島大学医学部第二内科に入局しました。その後、米国クリーブランドクリニックに３年半留学した以外は、ほとんど徳島大学に在籍し、循環器内科学の中でも心エコー図学を専門として、教育、研究、診療に従事しました。

今回､高松市からの寄附により当分野が新設され、私と特任助教1名が交替で高松市民病院における循環器診療を行っています。高松市民病院は、平成30年９月に新築移転して「高松市立みんなの病院」として再出発いたします。微力ではありますが、病院再建の一助となれますよう努力する所存ですので、今後ともお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H29. 10. 1	採用	酒　井　紀　典	運動機能外科学分野
H29. 10. 1	採用	千　川　隆　志	脊椎関節機能再建外科学分野
H29. 11. 1	採用	米　津　　浩	地域運動器・スポーツ医学分野
H30. 4. 1	採用	平　山　晃　斉	機能解剖学分野
H30. 4. 1	採用	兼　松　康　久	脳神経外科学分野
H30. 4. 1	採用	渡　辺　浩　良	小児科学分野
H30. 4. 1	昇任	座間味　義　人	臨床薬理学分野

退職者ご挨拶

腎臓内科学分野　教授　土　井　俊　夫

この度、徳島大学を定年退職いたします。長い間大変お世話になりました。

私は平成11年に医学部臨床検査医学講座教授および医学部附属病院検査部長で赴任し、組織改編を経て最終は大学院医歯薬学研究部腎臓内科学教授としても活動させていただきました。病院では、腎臓内科、検査部、透析室において教育、研究、診療および運営面でも仕事をさせていただきました。検査部と透析室は大学病院の中央診療部門であり、全科からの要望に応えて運営することは時に困難なものもあり、皆様方のご理解およびご鞭撻には厚くお礼申し上げます。また、徳島県下の腎臓病診療の向上に貢献できたことは私にとっては大変喜ばしいことと思っております。今後も徳島大学、病院および県下の教育・医療が益々発展していくことを祈願いたしております。

薬理学分野　教授　玉　置　俊　晃

平成30年3月末で、薬理学分野教授を定年退職いたしました。平成8年8月に母校である徳島大学に帰ってきて、21年8月間お世話になりました。医学部で教育・研究・組織運営に携わり、大過なく務めることができました。振り返ってみますと、浅学非才の身を顧みずに、医学部・HBS 研究部で色々な改革に関与してきました。「1浪生を含む推薦入試」、「PBL チュートリアル教育」、「統合医療教育開発センターの設置」、「MD-PhD コースの設立」、「クラスター研究・教育の推進」など。これらの改革が、徳島大学医学部のさらなる発展に役立てれば幸いです。多くの改革に取り組めたのは、ひとえに薬理学分野の教職員のみならず、多くの先生や各種技官や事務職員などの多大な支えがあって全うできたものと、心より感謝申し上げます。

人類遺伝学分野　教授　井　本　逸　勢

平成30年3月31日をもちまして、徳島大学を退職することになりました。平成22年5月に着任以来、教育・研究に加え、大学病院での遺伝診療や、副理事としての全学の研究支援という管理業務などを担当させていただくなど、充実した大学教員生活を過ごすことができました。退職後は、愛知県がんセンターに赴任することが決定しております。ご存知のように、国策としてゲノム医療推進に時代が転換していく中で、がん医療も大きく形を変えようとしており、微力ではありますがその一翼を担うことができるよう努力いたす所存です。

短い間ではございましたが、多くの皆様方の温かい応援を頂き仕事ができましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

救急集中治療医学分野　教授　西　村　匡　司

新設された救急集中治療医学分野には、平成16年1月に赴任しました。救急集中治療、特に集中治療部は、院内の中央診療部で重症患者の治療を行う特殊な部門です。ここでは治療が主治医の手から集中治療医に託されます。医師ばかりではなく、全ての医療従事者からの支援無くしては成り立ちません。臨床的には皆様の支援により、レベルの高い部門に成長させていただきました。救急専門医、集中治療専門医も毎年誕生するようになりました。一方で、研究面では十分な成果を残すことができなかったと反省しています。これまでのご厚誼に心より御礼申し上げます。今後も変わりなく、当分野へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

蔵本事務部長　秋　山　靖　夫

昭和62年4月に徳島大学薬学部に採用されてから早30年が過ぎ、平成30年3月で定年退職となりました。在職中は事務職員をはじめ多数の先生方にもお世話になり、私なりに本学の運営に尽力してまいりました。

平成16年に、国立大学はこれまでの文部科学省傘下の護送船団から一法人となり、本学も自主独立しました。教育・研究・地域貢献を柱として、自己収入と国からの運営費交付金の中で大学運営の方針を自ら考え、決定できる仕組みとなり、自由度は増しました。一方で、自己責任が重くのしかかる制度改革でもありました。このような大きな転換期に携わるとともに、この制度の運用や改善にも教職員の協力を得ながら仕事ができたことは、私のこれからの人生においても非常に有意義な時間を過ごさせていただいたと思います。

定年退職を迎え、改めて教職員皆様方のご指導・ご支援に心より感謝申し上げる次第です。これからの大学運営は一層厳しくなりますが、皆様方がやるべきことを確実に対処していけば乗り越えられると考えております。徳島大学医学部の今後益々のご発展を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。

白衣授与・Student Doctor 認定証授与式

医療教育学分野　教授　赤　池　雅　史

平成30年1月15日、大塚講堂において、保護者の皆様のご列席の下、医学科4年生99名を対象に白衣授与・Student Doctor 認定証授与式が行われました。第一部では、丹黒章医学部長、永廣信治病院長、櫻井えつ青藍会（医学科同窓会）会長からのご挨拶と学生代表として小倉佑一朗さんの宣誓の後、学生ひとりずつに徳島大学病院のエンブレムが肩に刺繍された白衣と全国医学部長病院長会議発行の Student Doctor 認定証が授与されました。第二部では、キャリア形成教育の一環として、西良浩一先生（運動機能外科学分野教授）と鎌村好孝先生（徳島県保健福祉部次長）のご講演が行われました。

臨床実習準備教育を修了し、共用試験医学系 CBT（コンピュータを用いて知識を客観的に評価する試験）と OSCE（客観的臨床能力試験）に合格した医学生は、Student Doctor としてクリニカル・クラークシップ（診療参加型臨床実習）の履修を開始します。最近の医学教育では、認知的徒弟制の考えの下、学生は診療チームの一員として能力に見合う役割を持ち、指導医の下で適切な教育ステップを踏みながら、診療チームの周辺から中心的存在へと徐々に成長していくことが期待されています（正統的周辺参加）。この度、学生に授与された白衣は青藍会からのご寄贈によるもので、白衣授与は正統的周辺参加の象徴であり、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。白衣授与と Student Doctor 認定によって、医学生が心構えと自覚を持つことを促すとともに、臨床実習を通して優れた医師に成長していくことができるように、これからも医学教育の改革を推進していきたいと思います。

◆◆◆　受賞者紹介　◆◆◆

平成29年度岡奨学賞

上番増　　喬（予防環境栄養学分野　特任助教）
「腸内環境データから栄養素，食品成分の安全性・新規機能を科学する試み」

髙　濵　充　寛（炎症生物学分野　助教）
「病原体に対する自然免疫機構の解析」

※医学部および先端酵素学研究所において、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

第40回徳島医学会賞

石　澤　有　紀（薬理学分野　講師）
「マウス大動脈瘤形成に対するケルセチンの効果」

遠　藤　健　次（徳島県整形外科医会）
「ロコモティブシンドロームとメタボリックシンドロームの関連性の検討」

※第256 回徳島医学会学術集会（平成30年2月11日）において受賞者が選考されました。

第19回若手奨励賞

平　岡　淳一郎（徳島大学病院卒後臨床研修センター医員）
「ソラフェニブによる治療経過中にケラトアカントーマを発症した進行肝細胞癌の１例」

川　田　知　代（徳島県立中央病院医学教育センター）
「食道癌術後に気管・気管支内腔に多発性ポリープ状隆起病変を呈した小細胞癌の１例」

※第256回徳島医学会学術集会（平成30年2月11日）において受賞者が選考されました。

平成29年度医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞

吾　妻　雅　彦
（医療教育学分野　准教授）

栄養学優秀教育賞

下　畑　隆　明
（予防環境栄養学分野　助教）

保健学優秀教育賞

髙　尾　正一郎
（医用画像解析学分野　助教）

※医学科、医科栄養学科、保健学科の教育および学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

医学部ベストティーチャー・オブ・ザ・イヤー2017

医学科

志　内　哲　也
（統合生理学分野　准教授）

下　北　英　輔
（顕微解剖学分野　助教）

西　川　達　哉
（病態生理学分野　助教）

医科栄養学科

山　田　苑　子
（疾患治療栄養学分野　助教）

保健学科

片　岡　佳　子
（微生物･遺伝子解析学分野　教授）

※学生の投票に基づき選考される賞です。

医学部医学科ベストティーチャー・オブ・ザ・イヤー・イン・クリニカル・クラークシップ2017

医学科

川　西　良　典（病院手術部　助教）
松　井　寿美佳（病院周産母子センター　助教）
倉　橋　清　衛（病院内分泌・代謝内科　特任助教）
大　北　真　哉（病院脳神経外科　特任助教）
山　本　恭　代（病院泌尿器科　講師）
上　野　義　豊（病院救急集中治療部　医員）
武　藤　浩　平（病院神経内科　医員）
四　宮　加　容（眼科学分野　講師）
齋　藤　　裕（疾患治療栄養学分野　助教）

※学生の投票に基づき選考される賞です。

平成29年度徳島大学若手研究者学長表彰

馬　渡　一　諭（予防環境栄養学分野　講師）
「ＬＥＤの放射特性を利用した病原微生物制御法の確立と医療・食品衛生分野への応用」

※本学における若手研究者の研究能力の向上を図るとともに、若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進することを目的とし、40歳未満の特に優れた若手研究者を表彰し、研究支援費を授与する賞です。

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

平成29年度 中田賞

第64回医学科卒業生（平成30年3月卒業）
磯 村 祐 太

卒業という門出に、名誉ある中田賞をいただき誠に光栄に存じます。この度の受賞により、6年間で自分が学んできた過程が間違いではなかったと自信を深めることができました。ここに至るまで、ご指導いただいた先生方、諸事全般のサポートをいただいた職員の皆様、苦楽を共にした学友、そして、優しく見守ってくれていた両親にこの場を借りて深く感謝申し上げます。これを機に、医師としての今後もより一層の研鑽に励んでまいります。

平成29年度 児玉賞

第1回医科栄養学科卒業生（平成30年3月卒業）
北 尾 緑

この度は、名誉ある児玉賞をいただき大変光栄に思います。熱心にご指導くださいました先生方をはじめ、互いに努力し合った友人、そして、どんな時も応援してくれた家族に心から感謝いたします。大学生活では人との出会いに恵まれ、様々な経験を積むことができました。また、周りの支えがあったからこそ、自分と向き合い成長できた4年間でもありました。今後も感謝の気持ちを忘れず、日々精進してまいりたいと思います。

平成29年度 看護学専攻賞

第13回看護学専攻卒業生（平成30年3月卒業）
伊 藤 梨 紗

この度は、名誉ある看護学専攻賞をいただき大変光栄に思います。この賞をいただけたのは、4年間熱心にご指導してくださった先生方をはじめ、温かく見守ってくれた家族、苦楽を共にした友人の支えがあったおかげです。心より感謝しております。大学4年間での学びや出会いを大切に今後も努力し、さらに成長できるよう日々精進してまいります。

平成29年度 放射線技術科学専攻賞

第13回放射線技術科学専攻卒業生（平成30年3月卒業）
冨 田 恵 美

この度は、名誉ある放射線技術科学専攻賞をいただくことができたことを大変光栄に思っております。これまで熱心にご指導くださった先生方、学生生活を共に励んできた友人および陰ながら支えてくれた家族に心から感謝しています。学生生活では様々な経験を積むことができ、人間的にも非常に成長できた4年間でした。今後もこの賞に恥じぬように日々精進し、徳島大学の卒業生として社会で活躍したいと思っております。

平成29年度 検査技術科学専攻賞

第13回検査技術科学専攻卒業生（平成30年3月卒業）
山 口 夏 美

この度は、すだち賞という素晴らしい賞をいただき大変光栄に思います。4年間温かくご指導くださいました先生方をはじめ、友人や家族の支えのおかげで充実した大学生活を送れたことを心から感謝しております。今後もこの賞を励みとし、努力を怠らず、理想とする臨床検査技師に少しでも早く近づけるよう日々精進してまいります。

平成29年度 医学部優秀学生賞

【学生】
栄養生命科学教育部博士後期課程1年次：楢　﨑　瑶　子
栄養生命科学教育部博士前期課程1年次：吉　田　里　沙
保健学科放射線技術科学専攻4年次：冨　田　恵　美
保健科学教育部博士前期課程保健学専攻看護学領域2年次：中　島　成　美

【学生団体】
医学科：TOP勉強会
保健学科看護学専攻：看護子ども応援団2017（代表・大西花奈　外10名）
保健学科看護学専攻：フィンランド留学生実習サポーター（代表・眞邉友紀子　外3名）
保健学科検査技術科学専攻：MT研究会（代表・清水小波　外1名）

※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。
※年次は選考時のものです。

徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
（平成26年3月26日）

●認定評価機関
独立行政法人大学評価・学位授与機構
●認証期間　7年間
（平成26年4月1日～平成33年3月31日）

編集後記

4年に1度の祭典である冬季オリンピックが開催された。数々の日本人選手が活躍し、選手の大会に向けたエピソードが連日紹介された。その中で印象的だったのが、スピードスケートの小平選手を支えた相澤病院の理事長の話だった。就職先が無く困窮していた大学生の小平選手を病院の職員として採用し、スケートに専念させる環境を提供した。職員の身分のままオランダへの留学費用も全面的に支援した。オリンピックで活躍する選手になるとも思わず、スケートに対する直向きさに純粋に心を動かされたという。相澤理事長は3代続く医師であり、父からは「利益が出たら世のために使え」と言われてきた。医療系、特に国公立大学には多額の国費が投じられている。4年間から6年間、いや、もっと長い期間かもしれない。多くのことを学び、体験し、医療を通じてその成果を社会へ還元しなくてはならない。

（医学部広報委員会　副委員長　酒井　徹）

発　　行　徳島大学医学部　　編　　集　医学部広報委員会
広報委員　六反一仁（委員長）、赤池雅史、西村匡司、髙山哲治、酒井　徹、大塚秀樹、秋山靖夫、松本峻和、松尾拓真、奥村陽介

本誌へのご意見・ご要望は、（総務係）E-mail：isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。
なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。
Tel：088-633-9116　Fax：088-633-9028　URL http://www.tokushima-u.ac.jp/med/